

นิทานญี่ปุ่น ~ กาลครั้งหนึ่งนานมาแล้ว~

วาระชิเบะโจเซ(เศรษฐีรวงข้าว)



กาลครั้งหนึ่งนานมาแล้ว ณ ที่แห่งหนึ่ง มีชายหนุ่มคนหนึ่งที่ยากจนมาก วันหนึ่งชายหนุ่มไปที่วัดและขอพรจากเจ้าแม่กวนอิมอย่างตั้งอกตั้งใจ “เจ้าแม่กวนอิม ช่วยทำให้ข้ากลายเป็นเศรษฐีด้วยเถิด” เจ้าแม่กวนอิมปรากฏกายขึ้นและกล่าวว่า “จงทะนุถนอมสิ่งที่มีของเจ้าคว้าเอาไว้ได้เป็นสิ่งแรกเมื่อออกจากวัดแห่งนี้”

เมื่อได้ฟังเช่นนั้นชายหนุ่มก็เดินออกจากวัด ในขณะที่กำลังก้าวขาออกจากวัดชายหนุ่มได้ไปสะดุดกับอะไรสักอย่างแล้วล้มลง เมื่อลุกขึ้นยืนก็พบว่า คนได้คว้าฟางข้าว (รวงข้าว) เอาไว้ในมือ แม้จะรู้สึกผิดหวังเล็กน้อยที่เป็นเพียงฟางข้าวธรรมดา แต่ชายหนุ่มก็ทะนุถนอมฟางเส้นนั้นตามคำบอกของเจ้าแม่กวนอิมแล้วเริ่มเดินต่อไป

เมื่อเดินไปได้สักหน่อยก็เจอตัวเหลือบมาบินวนอยู่รอบๆ ชายหนุ่มจึงจับมันแล้วมัดเอาไว้ด้วยฟาง เมื่อถือเดินต่อไปก็พบกับเด็กที่กำลังร้องไห้อยู่ข้างทาง พอเด็กเห็นเหลือบที่ชายหนุ่มถืออยู่ในมือก็หยุดร้องไห้แล้วก็หัวเราะออกมาในทันใด ชายหนุ่มจึงให้ฟางเส้นนั้นแก่เด็ก เพื่อเป็นการตอบแทนแม่ของเด็กน้อย ได้มอบส้มให้แก่ชายหนุ่ม

พอถือส้มเดินต่อไปอีก ชายหนุ่มก็ไปเจอกับหญิงสาวที่กำลังทรมาณเพราะคอแห้งกระหายน้ำอยู่ข้างทาง ชายหนุ่มจึงให้ส้มที่ตนมีอยู่ หญิงสาวดีใจมากและได้มอบผ้าให้ชายหนุ่มเป็นการตอบแทน

ชายหนุ่มถือผ้าต่อไปอีกก็ได้พบกับชายฉกรรจ์ที่ดูไม่แข็งแรง พอเห็นผ้าของชายหนุ่ม ชายฉกรรจ์นั้นก็เสนอให้แลกม้า ชายหนุ่มยอมแลกแบบช่วยไม่ได้ ม้าทำท่าเหมือนจะล้มพับ ชายหนุ่มจึงเฝ้าพยาบาลม้าอย่างตั้งอกตั้งใจ ดูแลมันตลอดทั้งคืน วันรุ่งขึ้นม้าก็แข็งแรงขึ้น ชายหนุ่มจึงขี่ม้าที่แข็งแรงเดินต่อไปจนถึงคฤหาสน์หลังใหญ่ที่มีชายยืนอยู่ด้านหน้า เมื่อชายผู้นั้นเห็นม้าก็กล่าวว่า “ช่างเป็นม้างามอะไรเช่นนี้ ข้ากำลังจะออกเดินทางไปท่องเที่ยว แต่ไม่มีม้า ขอม้าตัวนี้ให้ข้าได้ไหม ข้าจะยกคฤหาสน์กับที่ดินให้แก่เจ้า” ด้วยเหตุนี้ชายหนุ่มจึงได้เป็นผู้ครองคฤหาสน์หลังใหญ่อย่างมีความสุข

日本の昔話~むかし、むかし~

わらしべ長者

むかしむかし ところ ます わかもの ひ
昔々ある所にととも貧しい若者がいました。ある日
わかもの たら い かんのかんさま ねっしん いの
若者はお寺に行き、観音様に熱心にお祈りしました。
かんのかんさま わたし かね も
「観音様、どうか私をお金持ちにしてください」。する
かんのかんさま たら で ばんさいしよ て
と観音様が現れ「それではこの寺を出て1番最初に手に
もの たいせつ よ い
つかむ物を大切にすることが良い」と言いました。

それを聞いた若者が、歩き出した途端のこと。寺を出
ところ なに ころ たら あ
た所で何かにつまずいて転んでしまいました。立ち上
るとき たら
がった時には、手に藁(わらしべ)をつかんでいました。
わかもの かんのかんさま い たら もの たら わら
若者は、観音様が言われた通りつかんだ物が、ただの藁
であつたことに少しがっかりしましたが、言われた通り
それを大事に持って歩き始めました。

少し行くとあぶがぶんぶん飛び回っていました。若者は
あぶ びきつが わら も
あぶを1匹捕まえて、藁にくくりつけました。それを持つ
ある みちばた な こども であ
て歩いてると、道端で泣いている子供に出会いました。
こども わかもの て も あぶ み きてう な や
子供は若者が手に持っていたあぶを見ると、急に泣き止ん
わら たら わかもの こども
で笑い出しました。そこで若者は子供にそれをやりまし
た。すると子供の母親がお礼にと若者に蜜柑をくれました。

若者が蜜柑を持ってまた歩いていくと、今度は道端で
わかもの みかん も ある こんど みちばた であ
若者が蜜柑を持ってまた歩いていくと、今度は道端で
くる わすめ であ わすめ のど かわ くる
苦しんでいる娘に出会いました。娘は喉が渇いて苦し
わかもの も みかん さ だ
んでいたのでした。若者が持っていた蜜柑を差し出すと、
わすめ たいへんよろこ たら す
娘は大変喜びました。そして助けてくれたお礼にと、
たんもの
反物をくれました。

若者が反物を持ってまた歩いていくと、元気がない馬
わかもの たんもの も ある げんき うま
若者が反物を持ってまた歩いていくと、元気がない馬
つ おとこ ある おとこ わかもの たんもの み
を連れた男が歩いてきました。男は若者の反物を見る
うま こうかん い
と、馬と交換しないかと言いました。しょうがないので
こうかん うま たお わかもの うま
交換してやりましたが、馬は倒れそうです。若者は馬を
ひとばんじゅう いっしょうけんめいかんぴょう
ひと晩中、一生懸命看病しました。すると次の日、馬は
げんき げんき げんき うま つ わかもの
とても元気になりました。元気になった馬を連れて若者
ある おお やしき まえ おとこ た
が歩いていくと、大きな屋敷があり、その前に男が立っ
おとこ うま み たいへんりっぱ うま じつ わたし
ていました。男は馬を見ると「大変立派な馬だ。実は私
たび で うま やしき とち
はこれから旅に出るのに馬がない。この屋敷と土地をお
まえ たら わたし い
前にやるから馬を私に出来ないか」と言いました。こ
わかもの さいご おおやしき しゅじん
うして若者は、最後には大屋敷の主人となりましたとき。
めでたしめでたし。